

## 西ドイツ West Germany

※毎年、女性スポーツセミナー開催※

諸外国では、一般女性へのスポーツ普及に、どのように取組んでいるのでしょうか。西ドイツスポーツ連盟(DSB)の「女性スポーツ担当部門」の活動について触れたものが「体力つくり」(財・健康・体力づくり事業財団発行)第3号に掲載されているので、かいつまんでご紹介してみよう。西ドイツのスポーツ界は、国民スポーツ振興のための「ゴールドプラン」を実施して注目を浴びたことがあります。

さて、「女性スポーツ担当部門」は毎年、「女性とスポーツ—地域生活の関連」をテーマにセミナーを開催しています。ちょっと古い資料ですが、一昨年の実行委員会での主な話題は「みんなのスポーツ—女性もすべてのスポーツへ」ということでした。そこで行われた討論の結果は、なかなか興味深いものがあります。

たとえば—男女の生物学的差異はあるが、医学的見地から、女性がやるべきでない理由を明示できるスポーツはない。また、国際的組織が女性スポーツの振興を公約しているといっても、すべての機関が女性のスポーツへの参加問題に正面から立ち向かっているとは限らない—というような内容です。

現状はどここの国も同じ様です。

## 米国 U.S.A.

※有名選手が安全運転運動に協力※

アフリカ難民の救済を目的とした「ライブ・エイド」、日本でもテレビで放映されましたが、ご覧になりましたか? ロンドンのウェンブリースタジアムとフィラデルフィアのJFKスタジアムを衛星中継で結んでの地球ぐるみのイベントは、まさに宇宙時代の素晴らしい産物といってもいいでしょう。そして、欧米ミュージシャンの行動力と、ボランティア活動に対する積極的な態度に感動を覚えました。それにひきかえ、日本の現状に物足りなさを感じた人は、少なくないでしょう。

このような傾向は、音楽に限ったことではなく、スポーツ界でも同様です。米国WSFの有カメンバーが、このほどニューヨーク市の「スポーツ選手による飲酒運転禁止キャンペーン」に協力することが決まりました。これは特に10代の若者を対象にしたものです。協力しているのは、WSF会長のドナ・デ・パロナほか、スポーツキャスターで遠泳の世界記録を出したところのあるダイアナ・ナイアド、初の女性F1レーサーのジャンネット・ガスリーなどです。中でもレーサーのガスリーはこれまでも安全運転教育に積極的に協力していて、過去6年間ほとんど毎月、高校生を対象に講演してきたそうです。

## ソ連 U.S.S.R.

※余暇分野では男性上位※

ソ連では、余暇をどう過ごすかについて、このところ活発な議論が交わされています。APNプレスニュースによれば、工場労働者の1年間の自由時間は、男性で約1800時間、外で働く女性は、1150時間という調査結果が出ています。女性として気になるのは、あちらの国も、やはり男性の方が自分のための時間がはるかに長くとれるということ。この20年間の自由時間の伸びも、男性510時間に対し、女性は約5分の1の110時間です。

社会学者の予測では、ソ連国民の余暇は今後も増えるということです。というのも、より充実した余暇対策として、家事労働の軽減や保育施設の拡充をめざす措置が実施されることになっていくからです。さらに、余暇時間の長さの男女間の格差は縮まる方向にあるともいえます。その裏付けは「男性が今よりずっと家事を分担するようになる」からだそうです。

余暇の過ごし方でトップは読書やテレビ・ラジオの視聴。これからはスポーツも見て楽しむだけでなく、積極的に体を動かし、健康をより増進させる方向にあるとか。しかし、施設等の拡充はともかく、男性意識はどこまで変革できるのか、他人ごとながら大いに興味があります。